Network & Footwork

メディアハウスA&S Vol.26

あけましておめでとうございます

A Happy New Year!

Bonne Année!

新しい10年のスタートに思う

2010年となりました。 新しい年のはじまりであり、2010年代のはじまりでもあります。 2010年代は中国が世界二位の経済大国となり、サッカーワールドカップが南アフリカで開催される今年からスタート。 ここ数年、世の中で起こっていることが、自分の頭のなかの世界地図を書き換える必要を感じさせます。そこで年頭にあたって2010年代の世界を空想してみようと思います。

大規模な紛争、世界的な食糧危機や災害、環境破壊などが起こらなければ、世界は三つの巨大経済経済圏に集約していくと考えることができるのではないでしょうか。三つの巨大経済経済圏とは、

- ●EU＋ロシア経済圏
- ●中国、インドを中心にすえたアジア経済圏
- ●北アメリカ経済圏

2010年代は、これら三大経済圏に南半球の大陸の経済がそれぞれ二つずつブリッジをかけるように関わっていく。頭に世界地図を思い浮かべてみてください。

- ・アフリカは歴史的につながりの深い「EU＋ロシア経済圏」と、やはり歴史的につながりの深いインド、資源外交で関係を深める中国からなる「アジア経済圏」にブリッジ
- ・オセアニアは「北アメリカ経済圏」と「アジア経済圏」にブリッジ
- ・中南米は「北アメリカ経済圏」と歴史的につながりの深い「EU＋ロシア経済圏」にブリッジ

このうちアフリカ経済が立ち上がるのは、もう少し時間がかかるでしょう。またオセアニア経済は天然資源と食糧、観光を中心とし、自らが世界経済を牽引する役割を選択する可能性は少ないのではないでしょうか。こうした立場を取るのは、三大巨大経済圏のなかでアジアのみが食糧、天然資源を自らの経済圏で必要量の調達が困難で、輸入に頼らざるを得ないということを考えれば合理的な判断のひとつということができます。南半球のうち中南米だけが四番目の世界経済の自立した成長エンジンとして台頭しうる。いまのところ、その先陣を切ることのできる最もよい位置につけているのが、2014年にサッカーワールドカップ、2016年にオリンピックを開催するブラジルです。

さて、こうした中で日本はどうすべきか。三大経済圏は自らのルール・規範にしたがって成長しようとするでしょうから、そのあいだに緩衝材としての役割、ブロック間の結節点における変換器の役割が存在した方がよいかもしれません。すでにイギリスはEUと北アメリカのあいだに立って、その役割を果たしていると考えることができます。トルコもすでにヨーロッパ企業の工場がいくつも稼働しEU加盟を志向する一方で、イスラムの大国という一面も備えています。

日本の当面のモデルはイギリス。国土の一方が面積も経済規模も、そして国際的な発言力も増す巨大な大陸に面し、もう一方を大海をはさんで北アメリカに面した島国。共通点は多いけれど、日本がイギリス型の道を行くには制度も、人々のメンタル面も、もっともっとグローバルに改革開放していく必要がありますね。

（飯田英明）

■高橋の取材ノートから

昨年お世話になりました関係者に心からお礼を申し上げます。本年も変わらぬご支援とアドバイスをお願い申し上げます。

◎社史・創業者伝

○できあがった一冊

昨年1月出版のマツイフーズ株式会社様会長松井幸次郎様著／代表取締役社長松井利直様発行の『創業六十周年記念　幸せを願いつつ、牛の歩みのごとく』の編纂に協力する。

この社史は昨年1月15日同社の新社屋建設記念式典で参列者に配布された。

「創業精神の相続」
http://www.m-h.co.jp/sougyou

○二冊が進行中

・東京の印刷会社様の70周年史編纂に協力している。ことし春に完成予定。

・関東圏にある運輸倉庫会社様の50周年史を編纂に協力している。2011年夏頃完成の予定。

○「後継者へのインタビュー」コーナーを創設

仕事のホームページ「創業精神の相続 社史・創業者伝」は従来、創業者や会社を相続する側を中心に取り上げていたが、相続される側、すなわち後継者あるいは将来後継者になるであろう方の話を取り上げる必要性を感じていた。そこで個人名のブログ（「高橋明紀代ブログ」）で登場いただいていた後継者へのインタビューを「創業精神の相続 社史・創業者伝」にも収録した。

「後継者へインタビュー」
http://takahashi-akiyo.jp/interview/

また、そのことをきっかけとして、あらたに後継者へインタビューを行い、掲載をはじめた。昨年掲載のケースは以下3社4人である。

１）朝霧重治氏

埼玉県川越市の（株）協同商事・コエドブルワリー様の副社長朝霧氏（当時）へのインタビューを3回連続で掲載。同氏は取材後の6月に社長に就任。

２）伊藤麻美氏

埼玉県さいたま市の日本電鍍(でんと)工業（株）様代表取締役表取伊藤麻美氏へのインタビューを3回連続で掲載。

３）櫻井武寛氏、松本善文氏

宮城県大崎市にある(株)一ノ蔵様の本社で、同社代表取締役会長櫻井武寛氏と代表取締役社長松本善文氏をインタビューし、3回連続で掲載。

◎印象の残った方々、印象に残った話

○ キーパーズ(有)代表取締役社長吉田太一氏

吉田社長は2000年から遺品整理専門サービスを全国展開。同社のサービスは遺族の意向を尊重しながら、遺族に替わり遺品整理を行っている。吉田社長の講演で、独居老人の死後の事例を聞いた。自分の晩年を考える上で、参考となる内容であった。

キーパーズ(有) のホームページ
http://www.keepers.jp/#page_top»

○ 生活設計塾クルーメンバーの内藤真弓氏

同グループのメンバー全員が銀行、証券会社、保険会社等に属さない独立系のファイナンシャル・プランナーで、中立公正な立場でアドバイスを行う。私は内藤氏に生命保険の見直しのアドバイスを受けた。同グループは毎月1回セミナーを開催。昨12月はグループ代表の野田眞氏が「セカンドライフ模様」と題した老後の暮らし方やプランについて、中味の濃い講演をされた。

「生活設計塾クルー」
http://www.fp-clue.com/

結果として吉田社長や内藤氏との出会いは、自分の今後のライフプランを考えるうえでとても参考となった。

○ 退職後にロンドンの語学学校へ通った沢田千鶴子氏

友人の澤田氏は58才で大手損保会社を退職。その数年前から英会話スクールに通学。退職後1年間はロンドンの語学学校に短期留学を準備し、念願適って三ヶ月の留学を果たして帰国。けっして体力があるとは言えない澤田氏だが、その好奇心の旺盛さと用意周到さ、加えて行動力に目を見張らされる。帰国後ブログを開設。本人いわく「ブログは“若葉マーク”」。セカンドライフに入っても元気な彼女の今後が楽しみ。

「団塊ウーマンのブログ」
http://czk.cocolog-nifty.com/blog/

○ 昨年8月「地域雑誌「谷根千」が94号で終刊

同誌は1984年10月の創刊で、以来私も25年間購読者のひとりであった。同誌の創刊メンバーの一人であり、東京では珍しく高度経済成長以前の街並みのおもかげが残る谷中・根津・千駄木を生活の拠点にしていた森まゆみ氏は、発刊の動機を「銀行の営業マンが私の預金通帳をみて、何度も不動産投資を勧めてくる。地元には高層マンション計画が出始め、身辺のバブル状態に違和感を強く感じていた。それならば、私たち、子育て仲間の仰木ひろみさんや山崎範子さんと不動産投資とは違う、もっとおもしろい活動をしよう」と話し合い、「谷根千」の創刊が決まったと述べている。

そしてこの25年間、三人は子育て、介護、家族の死など様々な出来事や試練を乗り越え、やがて成長した子どもからの支援も得て、本誌発行を続けた。

しかし、近年メンバーの病気もあり、継続が厳しくなってきた。２年前、まだ元気なうちに、自分たちの意思で終刊時期を決めたいと「谷根千終刊宣言」を出したが、かえって「谷根千」らしい決断と話題となった。

いま、日本各地で古い建造物や土地の習慣などを見直す動きが起きている。「谷根千」はその先がけであった。

「谷根千」の活動は海外からも注目され、アメリカの大学の研究対象となる予定という。私は終刊のイベントに参加し、スタッフに「お疲れさま」と伝えた。

「谷根千」は創刊動機もユニークだったが、終刊も鮮やかで印象に残るグループであった。

ここにあげた方々以外にも、多くの出会いがあった。すべてを紹介することはできないが、いずれもすばらしい方たちで、出会いに感謝します。

◎寄贈いただいた書籍から

○「地活な人々」（オンブック刊　三井不動産S&E総合研究所編）

同研究所主任研究員の滝山幸伸氏が6年間企画運営した「ワーカーズフォーラムWOC」のまちおこしをテーマに開催された「地域エッジ@東京エッジ」シリーズを元に編集。滝山様からの寄贈

○「創々たる!!　小さな世界企業」（中央線沿線楽会編/西武信用金庫協力　日本地域社会研所発行）

東京・中央線沿線のものづくり企業10社を収録。そのうちの一社、私が60周年社史の編纂に協力した日本ガーター(株)様からの寄贈

なおボランティアで行っていたフィリピンの路上で暮らす家族を描いたすばらしい 映画『マリアのへそ』の上映推進と、私の生家の記録は、持ち越しになった。前者については私自身の力不足であり、関係者の方々にお詫びします。後者は今年、計画を練り直し新たな気持ちで着手したい。

高橋明紀代
(m-haki@nifty.com)

有限会社メディアハウスエイアンドエス
〒108-0071
東京都港区白金台3丁目16番10-709号
PHONE （03）3449-0785
FAX （03）3449-0736
m-hmail@nifty.com
http://www.m-h.co.jp/

「創業精神の相続」
http://www.m-h.co.jp/sougyou
「高橋明紀代ブログ」
http://blog.livedoor.jp/amane2